



●神戸鳳月堂、故下村光治氏（先代社長）を偲ぶ集い

去る9月18日、昨年同日に急逝された神戸鳳月堂の先代社長、下村光治氏を偲ぶ集いが、盛大に催されました。会場のホテルゴーフルリツには、故人の好物の屋台が並べられ、ありし日の下村氏の面影を偲びました。



●小笠原暁さん還暦記念コンサート

9月14日、芦屋大学教授、小笠原暁さんの還暦記念コンサートが新神戸オリエンタルホテル・真珠の間で催されました。今年9月26日で60歳の誕生日を迎えた小笠原さん「月の砂漠」など自慢ののどを披露した。



●ドイツ統一の1周年に集う

あの劇的な東西ドイツの壁が破れ、ドイツ統一というヨーロッパの記念すべき10月3日。神戸・相楽園会館において、ドイツ総領事館バウマン総領事夫妻の主催からなるドイツ統一1周年の祝賀会が開かれ200人が集った。



●ジャパニーズドリーム号で望月美佐を囲む集い

ジャパニーズドリーム号（日本旅客船株式会社・船長・山下春海氏）が企画するジャスパクラブの会員募集のキャンペーンに、望月美佐さん（書家）を囲む船上パーティを4突入港中の船上で開催。約200名が参加。



● ミュージカル「近松むすばれて再び」制作発表

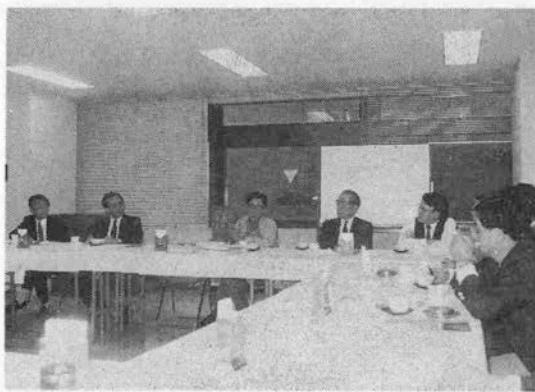
9月30日(月)、新神戸オリエンタルホテルで「近松むすばれて再び」の制作発表が行なわれた。宝塚OGと現役で上演される近松もの第3弾で、新趣向をこらしてお

り話題を呼びそう。(11/30~12/8公演予定)



● 兵庫の秋の実りを瀧鯉で

去る10月5日(土)生田神社社会館において第5回酒恋いの会が開かれた。オープニングは“灘の酒造り唄”で威勢よく始まり、移りゆく季節の秋に会場のメンバーは瀧鯉に、兵庫の実りに舌づみを打った。



● 第3木曜日を例会に一木曜クラブ

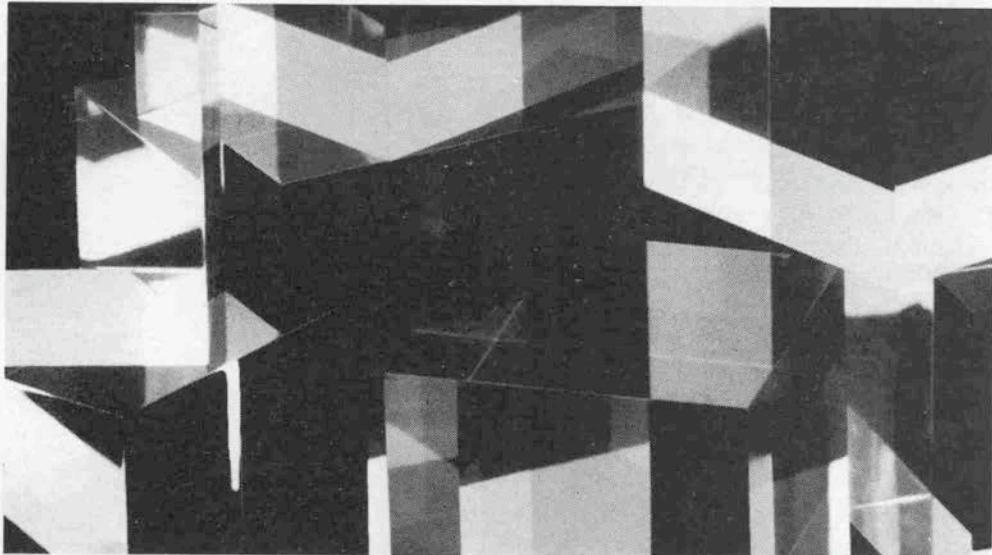
毎月、第3木曜日に元町界隈のメンバーが集まり勉強会を行なう“木曜クラブ”が、10月17日(木)に開かれた。ゲストは写真家の小林政夫氏。撮影にまつわる話をメンバーは熱心に聴き入っていた。



● “アレルギーが治るまで”出版記念パーティ開催

自分自身もアレルギーに苦しみ、7年間の格闘の上、見つけた答えをこのたび本にした、福岡悦子さん。10月9日、ホテルオークラで行なわれたパーティには福岡さんのお蔭でアレルギーが治った人が多数訪れた。

Autumn Greeting



株式会社 コーヴォ・アレダメント

代表取締役 杉本 勇和次

〒650 神戸市中央区下山手通3丁目13-15 パンプロスピル
TEL: (078) 331-0117 (代表) FAX: (078) 331-0108

大人達のスポーツクラブ 来春オープン

弘世 徳太郎さん
(株式会社ニッセイ・アスレティックス
代表取締役社長)

三宮オフィス街の真中に、来年四月スポーツクラブが誕生する。東京銀行の西南斜め向かい。神戸らしい外観と、ユニークなコンセプトを持つとのウワサの“ニッセイ・エグザス三宮”。そこで、経営の㈱ニッセイ・アスレティックス弘世徳太郎社長にお話を伺った。

——まず、本社のニッセイ・アスレティックスについてお話しを伺います。

「当社は昭和63年に、親会社日本生命の100周年を記念して設立されました。『國民が健康で幸せな人生を送るために』スポーツ施設、健康管理、スポーツ指導などを目的とします。社会奉仕ではなく、日生、ニチイ、ピープルと提携しての株式会社ですので、収益を挙げなければいけないのですが、難しいですね(笑)」

——今度オープンされるスポーツクラブの特色は?

「エグザスは、神戸では三宮の次にハーバーがオープン

される予定です。三宮は旧居留地という場所柄、色々な制約もありますので、昔の建物の外観を生かし神戸らしい重厚なたたずまいにしました。『シックな大人達のスポーツクラブ』と表現していますが、落ちついて楽しめるスペースを目指し、対象は18才以上の方としました。健康体力診断、個人に合わせたトレーニングもインストラクターが指導します。

ビルの地下1・2階がクラブになり、ゴージャスな雰囲気を大切にし、プールには水中照明で、リラックスして楽しめる工夫も凝らし、エアロスタジオでは音楽に合わせて光を変化させたりしています。吹抜けのラウンジがあり、プールを見おろして軽く一杯もね。

只今キャンペーン中ですので、入会予約をどうぞ。」

——日常を忘れてホッとできるスペースになりそうで、完成が待ち遠しいです。最後に社長の事を少し……。

「日本生命で40年過ごし、この会社を設立しましたが、大企業と違いすみずみまで見えるので、アットホームな会社だと自負しています。私は生粋の神戸っ子(住吉在住)ですし、神戸に店舗を持つ事が念願でした。自然の中に浸るのが好きで、自然を介して色々な人と友達になれたらし、スポーツクラブも、老いも若きも一緒に楽しめる所にしたいですね」



弘世徳太郎社長。「神戸っ子が造る、神戸っ子のためのスポーツクラブです」

□月刊神戸っ子30周年記念□

＜小磯良平遺作展によせて＞

画家小磯良平

VI. 晩年の展開

1972—1988年

山野英嗣

＜兵庫県立近代美術館＞

12月15日

1903-1988

一九七一（昭和四六）年春、小磯良平の東京芸術大学停年退官を記念して、美術学校入学以来の歩みを振り返った自選による「画業五十年小磯良平展」が、東京と神戸で開催された。この展覧会は、その後各地で数多く開かれることになる「小磯良平展」の口火を切った本格的な大回顧展として位置づけられている。そしてこの展覧会に出品された作品のうち、一九七〇（昭和四五）年作の△三人の踊子△以後二十点の出品作は、フランス人形と外国婦人をモチーフとしたものであり、本章で取り上げる小磯良平晩年の作品群に見られるテーマの、主たる傾向が予告されているかのようであった。このことから小磯良平は、芸大の退官を前に、以後の自らがすすむべき方向をほぼ固めていたようと思われる。本章の冒頭を飾る△白い首飾りの女△と△バイオリンと西洋人形△の作品は、晩年の小磯芸術の展開のエッセンスを集約したものであるといえるだろう。

ところが晩年においてさえ、小磯良平はただ黙々とアトリエで制作三昧の日々を送ることができたわけでもなかつたのである。この時代にも、小磯良平の手を借りなければならぬいわば公的な事業が舞い込んでくる。一九七三（昭和四八）年、小磯良平は東京・赤坂迎賓館のための壁画制作の依頼を受けたのである。この作品は二対のそれぞれが約200号の大作であったが、テーマを△絵画△、△音楽△として、翌年の三月に完成の運びとなつた。小磯良平にとつても△働く人△以来二十年ぶりの大作への挑戦となつたが、それだけではなく、この壁画はそれまでの画業の歩みを集大成したかのような出来栄えを示したものだといわれている。この△絵画△と△音楽△も群像表現の形式がとられているものの、寧ろ大胆にも現代の若者達を登場させているのは驚きである。

今回の展覧会では、そのエスキースを出品作に加えているので、完成作の面影をつかんでいただきたいが、中でも空間構成の印象は、現代的な人物群像を包み込む空間としては異質の、古典的な様相を呈したものであることに注目したい。モチーフの源泉となつているのは、小

磯良平が見慣れていた芸大の美術学部と音楽学部の学舎の一隅であろうが、現代にクラシカルな精神を継承するこれらの場が選びとられているのも、いかにも小磯良平らしい着想だといえるだろう。そして、これらの人物群像を包み込んでいる空間そのものの印象が、ヴェラスケスやフェルメールの絵画空間を想起させるのである。人物群像の構成は複雑で、様々な呼応関係を読みとることができる。また、奥行への空間の広がりが意図されているのも、迎賓館という建築内部に収められる作品であることが最初から意識されていたからであろう。建築内部の絵画作品という意味では、この迎賓館の壁画と相前後して着手された、神戸文化ホールや宝塚大劇場のためのどん帳の原画制作も、小磯良平晩年の特筆すべき活動である。

この『絵画』、『音楽』と恐らくは並行しながら、小磯良平はこの大作の一部分を改変し、独立したタブローに仕上げる試みも行っている。その結果誕生した作例が、『合奏』や『ギターを弾く男』であろう。とりわけ、『合奏』の画面全面で交差する楽器とこちらを振り向く



黒い衿の女 1977

女性との組み合わせ方法は新鮮で、小磯良平にとつても珍しい立体的な構成への取り組みが成功した作品である。迎賓館壁画の制作は、空間構成を考える上でも実り豊かな成果をもたらしていたのである。小磯良平は自己の画業の原点に立ちもどる作品を残してゆくのであった。

一九七〇年前後から、小磯良平は比較的数多く人形をモチーフとした作品を描いている。人形の絵はいってみれば、擬人化された静物画とでも位置づけられるだろうが、そもそも人形を描くようになった動機について、小磯良平は「人形の絵といえれば小出横重のガラス絵の中に非常に印象深い作品があつて、私もいつかは人形を描きたいと思っていました」と述べている。この章にも、『バイオリンと西洋人形』や『人形四体』他の人形をモチーフした作品を集めているが、人形といつてもそれは小出横重の場合と同様にフランス人形のこと指向しているのであって、これは洋風趣味化したモチーフの典型としての、ひとつ静物画と見做すことができるであろう。「静物」ということでは、『マヌキヤン』の作品にも見られるいわゆるマネキン人形を対象としたときも同じことである。すでに触れたように、小磯良平はたとえ人物群像であつても、モデルはせいぜい一人か二人のことが多く、それを巧みに組み合わせて群像構成としているのである。換言すれば、世界も、一種の無名性をもつた特異な空間を形成したものだといえる。作品のすべてがすべてこの意図のもとに描かれているわけではないが、こうした特異なファンタジックな空

間を実現するためにも、最もふさわしいモチーフとして、人形やマネキンが選ばれているのだと思われるのである。《マヌキヤン》や《マヌキヤンと西洋人形(B)》では、ことさらその印象が強い。

一九七四(昭和四九)年三月、迎賓館の壁画は完成し、東京、大阪、名古屋を巡回して、エスキースと共に一般公開された。この壁画が完成したことで、小磯良平はアトリエの中でやっと自由な気分を味わえるようになったのか、モデルを招き入れ、お気に入りの衣装を着せて、再び女性像を描きはじめる。《裁縫する女》と《室内》には、小磯良平が求め続けた女性像のひとつのかつてが示されているかのようだ。短時間で一気に描き上げられた《外国婦人》、さらに《肘をかける女》や《黒い衿の女》のようだ。丹念な仕上がりを見せる女性肖像も、小磯女性像の典型と呼ぶべきものであろう。これらの作品には、あの画学生時代の《T嬢の像》から、まさに一直線の細長い糸が切れることなく繋がっている。小磯良平の空間構成で、時に重要な役割を演じている

のに光の効果がある。例えば《室内(B)》や《朝》のひとつ《朝》を見れば、ハイライトとして声高に光の存在感が誇張されているのではなく、画面全体に浸透するかのような柔らかさをもって、一層の静寂感を醸し出す段階にまで深められている。小磯良平がこれらの作品を描くにあたって、主題のみならず、その光の豊かな表情の可能性をフェルメールの《ヴァージナル》を弾く婦人などから学びとついたことも確かであろう。

ところで、一九五〇年代初頭の《母子像》やこの時期の裸婦作品の代表作《横向裸婦》などの作品に指摘されている古典主義的傾向は、その後一時影を潜めていたが、迎賓館壁画の空間構成で再び試みられ、一九七〇年代半ばから後半にかけての、小磯良平晩年のひとつ柱を形成してゆく。一九七四年の《婦人立像》や《集い》で、着衣の女性像、あるいは群像表現の形態をとりながら、現代に息づくモニュメンタルな古典主義とでもいうべき

風格を感じさせるまでに至っているのである。また、《船のある静物》は、揺るぎない画面構成と落着いた色調によって、静物画におけるこの古典主義的傾向が示されている。この作品などを見ると、すでに紹介した東京芸大教官時代の《かぼちゃのある静物》や《静物》、《時計のある静物》の一連の抽象的な例は、小磯良平にとてはまさに過渡期の表現であったことが明らかになる。一九七八(昭和五三)年の《描く婦人》は、人物と静物を合体させた、小磯良平独自の古典主義絵画の完成作であるといつても過言ではない。

この《描く婦人》は、小磯良平七五歳の作である。迎賓館壁画の着手の時も七歳に達しており、年齢的なことを考慮しても、この一九七〇年代はじめから後半にかけてが、小磯芸術の到達点であつたといえるだろう。そして一九七九(昭和五四)年に制作された一連の女性像、本展の出品作であれば《肩掛けの女(婦人像)》から《婦人像》にかけての作品には、小磯良平が自ら描き続けてきた女性像の、その制作の余韻を響かせているかのよう

な気配が感じられる。

本展では、最後の女性像として三点の外国婦人像を選んだ。すなわち一九八〇(昭和五五)年の《リュートを持つ婦人》、《婦人像》、《アトリエにて》の三点である。あの画業五十年を記念して開催された自選の展覧会の内容を反復するように、外国婦人像が最晩年でも、小磯良平の作品を代表するものとなつている。

《リュートを持つ婦人》では、その画面を満たす光の効果は、一種名状しがたい不思議な魅力をたたえ、この作品は恐らく、小磯良平の光の追求が頂点に達したものと考えられよう。そして一九八四(昭和五九)年の《アトリエにて》で、まるで強烈な西日を浴びたように、画面は明るさを増す。この最晩年に到来する明るい空間は、本展の油彩画の最後の作品となる《御影の風景》にも見られる。小磯良平自身、六十余年のその画業が決して悔いるものではなかつたことを、この明るい画面は象徴しているよう

でさえある。(読売新聞社発行 小磯良平遺作展カタログより転載)

K.F.S. NEWS

コウベ・ファッショントーカー

神戸ファッション市民大学OBによるグループ
神戸のファッション都市化をめざす

事務局／神戸市中央区東町113-1 大神ビル9F
月刊神戸っ子内 TEL.078-331-2246

活発に発言、『盛りあがったトーク』

9月20日(金)勤労会館にて“K.F.S. トーク”が開催された。

木場 古くから神戸の商いは貿易、船アパレルなどさかんです。又、スマートでセンスがいいという言葉と神戸の商いとのつながり、自分の仕事の現在が数年前からどう移りかわってきたかお話し下さい。

荒津 神戸のアパレルが栄えたのは神戸市が力を入れたからです。ファッションがのびたというのは、全国にも例がありません。私自身は、神港ドレスをしていますが、袖つけミシン一台400万円もします。素材的にどのくらい使えるかを研究しています。間接経費を少なくして、いい工場、いい商品を心がけ納期に気をつけなくてはと思っております。

西條 創業して23年になりますが、紳士服から出発して、婦人服へとかわってきました。第1にお客様に対して納期を守ることをモットーとしています。おかげで10年来手のすぐことがなく、忙しいですね。

田中 今、紳士服は職人が不足しています。若い人はしんぼうがきかないですね。ここ2、3年はアルマーニなど高

額なプレタがはやっていますから、オーダーだと安いという声もきます。中村 うちは、“今売れているものを今つくる”ということにしています。香港から布を買ってきて、韓国で作るト、すぐ作ってくれるので1カ月で完成します。お客様で若い方は、ラーメンすっても10万～20万する服を着るという人もいます。

大内 1965年にヨーロッパ、アメリカへ2カ月旅行して問屋さんを見てまわりました。その時アメリカで一番大きいボタン屋はノーションと雑品をおいていました。企業30年説というのがあります、他と同じことをしていたらつぶれてしまいます。また、神戸のファッションについて一口でいうと、卵の殻が革新、自身が保守、黄味が基本性重視、そういうものではないかと思うのですが。

高橋 私はにしむら珈琲に勤めていますが、私の会社には、パリ、ミラノなどの海外や、全国のデパート、東京、名古屋で展開しないかというお話をよくあるのですが、すべてお断りしてきました。珈琲の原価ですが1杯100円です。それを400円で売るのですから、

300円分はモノとして以外のものがあるわけです。この珈琲一杯の味にこれからも満足して頂けるようにと思っています。と、約2時間のトークを終えた。

●11月一般公開講座

とき 11月15日(金)

場所 三宮センタープラザ16F 中小企業指導センター

講師 三好正英氏

会費 会員無料 一般1000円

秋も深まってまいりましたが、11月のマンスリーは、神戸市役所経済局ファッションセンター建設準備室長の三好正英氏をお迎えし、六甲アイランドに竣工予定の衣裳博物館についてお話を頂きます。



K.F.S.トーク

神戸を

福祉の街に

“翼をください”

—骨髓バンクの設立のために—

今年の五月、新潟県で急性リンパ性白血病の17歳の長男を道連れに、49歳の母親が乗用車で海に飛び込み命を絶った。長男は二年前に白血病と診断されて入院し、骨髓移植に望みをかけて白血球のHLAの型の合う骨髓提供者をさがしていたが見つからずに行きづまっていたという。

白血病などの血液の難病で発病する人たちの数は全国で年間約六千人程。そのうち約二五〇〇人ぐらいは骨髓移植ができれば命を救うことができると。白血病や再生不良性貧血などの重い血液の病気はひと昔前までは不治の病と言われてきたが、最近では骨髓移植によって治る可能性がでてきてている。各地で骨髓バンク設立への動きが活発になってきており、厚生省も年内に骨髓移植推進財團を設立すると発表している。

9月21日に兵庫県民会館で「骨髓バンク神戸シンポジウム」が開かれたので会場を訪れた。

兵庫医科大学の原 宏教授、名古屋第一赤十字病院看護副部長の牧野正代さん、神戸新聞の慶山



全国骨髓バンク
推進連絡協議会

KOBE FUKUSHI

橋本 明

（社団法人家庭支援
促進協会事務局長）



充夫記者、兵庫県赤十字血液センター検査課長の能勢義介氏らがスライドを上映しながら、骨髓献血や移植の実際、看護上の問題点、世界の骨髓バンクの現状、白血球の型HLAなどについて説明があり、また現在日本で唯一の民間のバンクである「東海骨髓バンク」の活動についても報告があった。

参加者からは「24歳の娘が白血病で無菌室に入院中だが移植は可能なのかどうか」「ドナーの保険や補償はどうなっているのか」「移植する時の患者への告知はすべきなのか」「骨髓採集の方法のPRについて工夫がいるのでは」など、切実な涙を流しながらの質問もあった。このシンポジウムを主催した団体の一つである「骨髓献血の和を広げる会」は一昨年の十一月に京都府福知山市で発足し、この二年間骨髓献血を呼びかけ、骨髓バンク設立に向かってさまざまな活動を続けている。代表の藤岡八重子さんは娘の貴子さんを13歳の時に白血病で亡くしている。「患者からボランテ

「アヘ、そしてもつとこの運動の輪をひろげるためにはがんばりたい」と藤岡さんは終りの挨拶でシンポジウムをしめくくった。

ところで、骨髓移植をするためには白血球の型(HLA)が患者と一致した骨髓の提供者(ドナー)が必要なのだが、HLAが一致する確率は兄弟姉妹では四人に一人だが、きょうだいの数が少なくなっている今日ではこの確率はもつと低い。

他人とHLAが一致する確率となると五百人から一万人に一人ぐらいしかなく、患者がドナーを個人的にさがすことはもう不可能に近い。そこであらかじめドナーを募つてHLA型を登録しておき、骨髓移植の必要な患者がいるとHLA型を照合して骨髓移植の調整をする組織が骨髓バンクである。日本では登録者数が一万人で50%、五万人で80%、10万人で90%の患者にHLAの適合した人がみつかると計算されている。

わが国にはまだ全国的な骨髓バンクはないが、イギリスでは16万人、アメリカでは20万人もの登録者をもつバンクが設立されており、ヨーロッパ諸国やカナダ、オーストラリアなどにも数千人かたる。

重い血液疾患をもつ患者や家族にとつては時間と競いあう毎日もある。一日も早い全国的な骨髓バンクの設立と、多くの登録者への協力を望みたい。

上／県民会館で開かれた神戸シンポジウム
下／シンポジウムへの参加者が少なかったのは残念



ら数万人の登録者をもつバンクがある。現在世界23カ国の登録者数は50万人程。国内に適合者が見つからないと海外のバンクから適合者をさがすことも行なわれており、世界中に百万人の登録者をもつことが目標とされている。しかし日本人と欧米人とのHLAの型はかなり異なるため日本の患者が欧米の骨髓バンクからドナーを見いだすことはかなり困難でもあり、わが国でも早急に公的な全国規模の骨髓バンクが必要となっている。

兵庫県では骨髓移植に関する普及啓発や情報収集、ドナーの確保等について検討するための連絡協議会が今年の八月に設置された。

骨髓献血登録への問い合わせは左記へ。

「骨髓献血の和を広げる会」〒622-0 京都府福知山市土師一七七七
円覚寺内。電話〇七七三一七一七六九三



骨髓献血を呼びかけるポスター



北海道の大自然に包まれた定山渓温泉の観光協会青年部が出来たのは今年の4月でした。

今定山渓は、紅葉の真最中です。

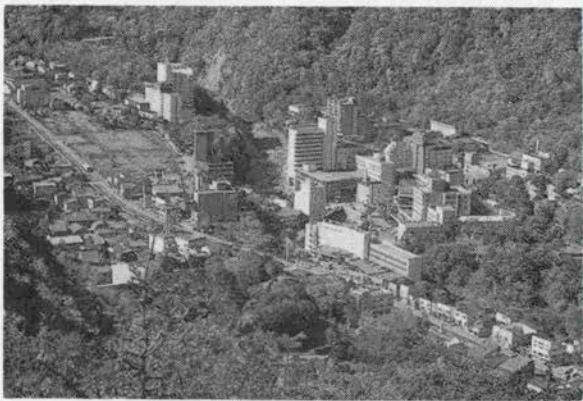
山には、キノコ、山ぶどう、こくわ等、山の幸でいっぱいです。

さて、7月23日に大阪に降り立ち、最初に暑いな、というのが皆んなの口から出た第一声です。車で高速道路を飛ばす事30分、めざす有馬温泉に着きました。

簡素な佇まいの中に、歴史の古さを感じさせる一方、近代的ホテルにも目が向きました。

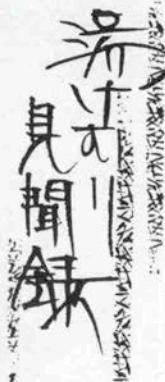
早速、有馬温泉観光協会青年部初代リーダーの弓削敏行さんに町を案内していただきました。

お茶会の開かれる瑞宝寺跡公園、鼓ヶ滝公園等、古い物が大事に保存されているのには、感心しました。特に念佛寺住職の永岡大純さんの



雄大な自然に囲まれた
“定山渓”。
あでやかな紅葉も、もう終わり、これからはスキー帰りの温泉客で賑わう。

定山渓温泉青年部 in 有馬PART〈II〉 「有馬回想録」



静寂さにつつまれた
くつろぎの宿

国際観光旅館

陵楓閣

TEL (078) 904-0675
TELEX 5627-115

結婚式場を完備しています



伝統と格式を誇る

兵満

向陽閣

景勝高台の近代旅館
TEL (078) 904-0501㈹

敷地内から湧きでる
日本最古の温泉“有馬温泉”

阪急ホテルチェーン

有馬ビューホテル

TEL (078) 904-2295㈹

温泉と演艺と遊技場

有馬ヘルスセンター

TEL (078) 904-2291

テニスでいい汗
いい湯にとっぷり
味に集う



Sunny Side up
サンライズ・テニスクラブ

TEL (078) 903-1024

木造りの宿

御所坊

TEL (078) 904-0551

お話を出て来る沙羅花の話等、歴史の古里を思い知らされました。

夜になり、青年部主催の、サマーイベント「有馬のカーニバル」が開かれました。ゆかたレディコンテスト、独創的な夜店等、地元の人たちの観光協会青年部に対する信頼とコミュニケーションの良さが羨ましいくらいで、見習いたい所だと感じました。

また大成功の後の全員での片付け掃除と夜遅くまでの町中のチームワークにも感心してしました。

その後、我々のために、梶木雅夫協会長みずから接待には真に感激しました。

翌日、有馬を後にしましたが、ロープウェイで神戸まで行ける等、観光地の整備の良さに、感心しました。

定山渓温泉青年部の初めての有馬温泉訪問は、真に勉強になり、今後迎えていただき、真にありがとうございました。

定山渓温泉観光協会

青年部長 高瀬 詔男

八重の里 JOYFUL ARIMA 御案内

場所 有馬クリスタルビル

(神戸電鉄有馬温泉駅ビル)

構成 ○秋の茶道具展—茶碗と蓋—

11月1日(金)～11月3日(日)

お茶奉仕 10時～15時 展示販売 17時迄

出展 櫻日興堂

○邦楽の夕べ
—新都山流尺八・生田流箏曲—

11月4日(祝) 16時～18時

出演 神戸研華会宮前社中 他

○洋風生け花展

11月5日(火)～11月10日(日) 9時～

18時 出展 グリーンファミリー

○手のひらサイズの夢
—世界のミニチュアカーニバル—

11月5日(火)～11月10日(日) 9時～

18時 出展カーナ

スカイライナー 六甲有馬ロープウェー

日本最長、延々、
五キロの空中旅情。

TEL 078(891)0031

自然の恵みを
湯けむりに伝える

政府登録国際観光旅館

古泉閣

TEL (078) 904-0731

欽山は典雅な
日本風の館です

国際観光旅館

欽山

TEL (078) 904-0701代

雅ただようくつろぎの館
中の丸瑞苑

TEL (078) 904-0781

会議セミナーから御家族づれまで
有馬グランドホテル

TEL (078) 904-0181

SPECIAL MESSAGE

神戸百店会だより



THANKS

★ サノへ創業60周年感謝
ヨーロッパフェア

去る10月8日(火)、9日

(水) ホテルオーネクラ神戸・

平安の間に於いて60周年の

記念とお客様方への感謝と

お礼の意を込めて、"創業60

周年記念ヨーロッパフェ

ア"が開催された。



FASHION

★ 魅力ある女性を目指して
「Will 美 Club」

より美しく、より魅力的な、
より充実した人生を希望する女性のために、ベニ



第1回パーティー

BEAUTY

★ フィニッシングセミナー
新しいあなたの出逢い

1923年、ニューヨー

クに設立されたジョン・ロバート・パワーズスクール。



藤本統紀子さん

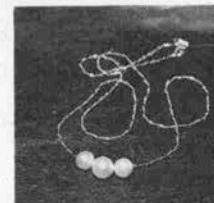


PEARL

★ 木下真珠
10周年記念パールフェア

清楚なイメージと紀子様
御成婚の影響で、未だ冷め
やらぬ真珠ブーム。北野坂
の木下真珠では、10周年を

記念し、感謝の気持ちをこ
めたパールフェアが開催さ
れる。数々のお祝打ち品に
加えて、抽選でお食事券、
パールネックレスお買いい
替り。



お買い上げの方にプレゼント

■ 11月16日(土)～22日(金)
AM 10時～PM 6時
TEL 221-3170

開校にあたり藤本統紀子
校長は「女性に対する最大
のほめ言葉は、"魅力的ね"
だと思います。日常に流さ
れがちな中で、自分をラ
ッピングさせていきま
しょう。」と語った。

ロンドン等より、秋冬物紳
士、婦人衣料はもとより毛
皮・バッグ・貴金属アクセ
サリーに至るまで平常価格
の30～70%OFFの素敵な
商品に、会場はお客様で賑
わっていた。

せは
221-3327。

10月28日に新神戸オリエ
ンタルホテルの文化教室エ
リオで開校された。

女性の魅力を内面と外面
から引き出す。





NEWS

★タジマカリニューアル
元町2丁目の宝飾店
"タジマ"が10月5日、
リニューアルオープンし
ました。ひときわ明るく
なった気品ある店内に
は、タジマならではの個
性的な商品がディスプレー
されています。その品
揃えも、前にも増して一
段と豊富になりました。

— 何とかノ
— ティーが
多いこれか
らの季節。
大人の女性
にだけ許さ
れる本物の
輝きが、あ
なたを待つ
ていてくれ
そうな予感
がします。

に、愛情溢れるアイテムは、贈る楽しさも味わえるものは、スイートビートをあしらった本シリーズ。愛らしい魅力いっぱいのコレクションだ。元町本店、北野坂ハウスにて取扱い

日時 11月13日(火)
受講料 8時～13時
40円
★クリスマスマーク付
今年は、手作りケーキで
クリスマス付
日時 11月26日(火)
13時半～16時
受講料 13,500円
■問い合わせ
電 03-3411-1211(代)
新神戸オリエンタルホテル
リオ文化教室まで。

● ファミリーカー
人気のホールマーク
ビーチターラビットと並ぶ、
ファミリアの大人気商品ホール
マーク、クリッショング・ボーチ
など、ギフトにぴったりの日
用品ばかりを集めたシリーズ
だ。元来アメリカのホールマ
ークなど、グリーティングカード
の世界ナンバー1企業。
さりげなく贈る人の思いやり
の心を伝えるカードのよう

PEOPLE <95>



●スーパーDRYからZまでお好みを。

木村宗祐さん〈アサヒビール株式会社
神戸支社長〉

アサヒビールは若さのエキス！ダンディでフレッシュな支社長が神戸に来られました。「消費者のニーズに合った商品を提供しております」おもねりではない。アサヒの指向と消費者の好みがマッチしたことへの自信の謙虚な表現のようだ。静かなバイタリティを湛えた木村さん。神戸の街に大輪の花が咲いたようです。

PRESENT CORNER

◆応募方法●葉書に住所、氏名、電話番号、希望する商品名を明記の上、**神戸市中央区東町113号**に郵送。郵便番号959。11月末までに当選者へ贈呈。日消印まで有効です。当選者には**神戸戸子**から当選葉書を発送。葉書を持って**神戸戸子**までブレゼントを受け取りに出かけ下さい。



- “ほろにが” 新商売
豊かなコクと上品なほろにがさ、味わいのビール“ほろにが”をビール通のお客様にプレゼント。350ml 缶24本入りを2名様に。

● ファミリアから
人気のホールマーク
ピーターラビットと並ぶ、
ファーマーの人気商品ホールマーク。
エプロンやキッズ用タオル、クッション、ポート
など、ギフトにぴったりの日用品ばかりを集めたシリーズです。
元米アメリカのホールマーク社は、
「カード」社は「ペースデーカード」
「ID」など、グリーティングカード
の世界ナンバーワン企業。
さりげなく贈る人の思いやり
の心を伝えるカードのよう

